

カナダの森林と樹木

針葉樹(2)

北海道大学農学部 深 沢 和 三

連載の最終回となる今回は、前回にひきつづき針葉樹の中から、モミ類、ダグラスファー、ヘムロック、ヒノキ科の樹木を紹介していただいた。

クリスマスツリーの研究 プロジェクトもある.....

モミ類：モミ属の樹種をファーと呼ぶ。しかし実際には後述のダグラスファーと区別するためにトルーパーと書かれたり呼んだりする。ダグラスファーの合板工場の説明では、ファーとしか言わないので混乱してしまった。北米でファーが9種あるが、うち4種がカナダにも生育する。**バルサムファー**（バルサムモミ）がカナダ全土、**アマピリスファー**（アマピリスモミ、パシフィックシルバーファー）が沿岸地帯、**グランドファー**（グランドイスモミ、アメリカオオモミ、ローランドファー）がコロンビア及び沿岸地帯、**アルパインファー**（ラシオカルパモミ）が亜高山及び山岳地帯に分布する。これらは材としては全く区別できない。またファーと前述のスプルースとも区別しないでスプルースの名で取引されることも多い。

バルサムファーは、東部で普通に見られるもので、シンメトリックな樹型、いわゆる教会の尖塔型で美しい。クリスマスツリーに用いられるが、この生産は一つの産業である。ニューブランズウィック州フレデリクトンにあるマリタイム林業試験場のプロジェクトの一つに、クリスマスツリーの生産とマーケットと言うのがあり、重要なテーマであると聞いた。クリスマスツリーの専用畑の設立、またバルサムファーの育苗及び病虫害の防除などを研究している。アルパインファーはこのバルサムファーの変種として扱われることもある。ロッキーの山中で、樹梢が尖って、枝が短いクロ

ーネは鉛筆をたてたような感じで見え、見事な景観を示している。

神が人類に与えた宝.....

ダグラスファー：その昔、デビッド・ダグラスというロンドン園芸学会に所属する学者が、種子をイギリスに送って育苗させ、広く世界に紹介した。1827年というからそう古い頃でない。モミ属の葉に似ることからこの名がついた。学名のスードツガ（トガサワラ属）はツガの親類ということである。ところによってはダグラススプルースと呼ぶ。商取引ではオレゴンパイン、日本ではベイマツと言われる。これほど名前がまぎらわしく、かつ有名な木はあまりない。確かに近くでは、枝葉や果



ダグラスファー保存林
(バンクーバー島)

実などで確認できるが、遠くからではよく見分けられなかった。ロッキーの亜高山帯から山岳地帯に入り、ダグラスファーがでてきたというので、一生懸命努力したが、樹冠や葉の遠景ではよくわからなかった。近くに采て特徴ある樹皮の深い溝を見てわかる始末である。もっともこれは幼時では見られず絶対的なものではない。ダグラスファーはBC州からメキシコにかけて分布するが、沿岸地帯に育つもの（コーストタイプ）と、内部の乾いた山岳及びコロンビア地帯に育つもの（インテリヤタイプ）とでは、樹型及び材質に大きな違いがある。私はバンクーバー島のポートアルバーニ近くの有名なダグラスファーの保存林に案内してもらった。樹令300～800年、胸高直径の最大は4m、樹高は100mもあるとか。通直で枝下が高く、見事な林である。いまでもこのような巨木が奥地にあると言う。太平洋沿岸地帯には三つの巨木美林がある。北からシトカスプルース、ダグラスファー、レッドウッド（セコイヤ、カリフォルニア地方）である。この三つの美林を見ることが出来て、この地帯を実にうらやましく感じた。神が人類にあたえた宝を生むところと言えよう。インテリヤタイプのダグラスファーは大きくならず樹型も悪い。材質もかなり違う。沿岸タイプは内陸タイプより年輪幅広く、しかも晩材幅が広いので比重が高く強度性能がすぐれている。ダグラスファーの蓄積はBCの針葉樹の約7%、丸太生産では12%を占める。内陸と沿岸タイプの比率は半々である。



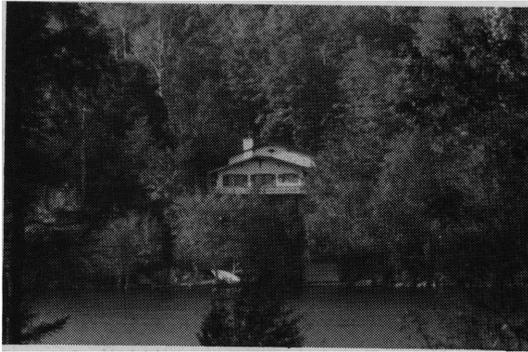
ウエスタンレッドシーダーと筆者
(バンクーバー島)

BC州に蓄積の多い.....

ヘムロック：ウエスタンヘムロック（アメリカツガ）は沿岸地帯及びコロンビア地帯に生育する。BC州から日本へ輸出される材の28%がスプルースで第1位、18%がヘムロック、17%がバルサムファーの順となっている。しかしBCにおける蓄積は、ヘムロックが第1位で23%、丸太生産では30%にのぼる。その大部分は沿岸地帯にある。事実この地帯の森林に入ると、ヘムロックが主体（40～50%）であり、その中にダグラスファー、スプルース、レッドシーダー、ファーが混交樹として入っているのが分かる。ヘムロックの樹梢先端は柔らかく湾曲しており、遠くからでもよく目立つ。バンクーバーの水源涵養林を見学した。保安林でなく施業を行っていた。2年前に見た東南アラスカの森林と同じく、林内のヘムロック稚樹の発育は旺盛であり、また小面積皆伐の跡地への浸入も容易である。アラスカと異なり、ここではヘムロックの間にダグラスファーを積極的に植え込み、これを育てるという方針をとっていた。カナダの東部、五大湖ローレンス及びアカディアン地帯には**イースタンヘムロック**（カナダツガ）が生育する。これはカナダが故郷のものである。落枝性が極めて悪く、生節及び死節として材中に残ることから材の価値は低い。

トータムポールやカヌーも作られる.....

ヒノキ科の樹種：ヒノキ科のものを一括して述べよう。この科のものをシーダーあるいはサイプレスと呼ぶ。マツ科のヒマラヤスギ属をトルーシーダー、日本のスギもジャパニーズシーダーであるから、スギ・ヒノキの区別のはっきりしている国から来ると、やはり混乱する。カナダではネズコ属のイースタンホワイトシーダーとウエスタンレッドシーダー、ヒノキ属のイエローサイプレスの3種がある。五大湖ローレンス及びアカディアン地帯で見られる樹皮がヒノキ肌の樹は**イースタンホワイトシーダー**（ニオイヒバ、アーポーバイチ）である。特に水辺の湿った土地を好む。モントリ



モントリオール郊外の湖と別荘地

オール郊外のローレンシャンには無数の湖沼がある。公園を除き、湖岸の土地は分割分譲され別荘地となる。湖は私有でないが、湖岸に公有地はないので一般の人は入れず、湖面も周囲の地主に独占されてしまう。モントリオールのサラリーマンは、そのような別荘を持っているのが普通であり、週末をそこで過ごす。私達も何軒かに招待された。湖畔にニオイヒバが多く見られた。西のBC州ではウエスタンレッドシーダ（ベイスギ、アメリカネズコ）が大木でよく目立つ樹木として認められる。バンクーバーのスタンレーパークにこの老木が多い。原始の状態に保存されているというこの公園は、新聞紙上にカナダの都市公園のベストワンに選ばれていた。この木は木理通直で耐久性にすぐれる。老令大径木の多くは中が空洞になっている。木理通直で割れやすいため運材中に衝撃のためバラバラになってしまったものも多く見た。それでも売るのはさしつかえない。なぜなら主な用途は屋根及び下見板であり、北米では最高にぜいたくな建築という。約10年でふきかえる。また、インディアンのトーテムポールもこれであり、カ

ヌーもこの木をそのままくりぬいて作る。カヌーの最大記録は長さ60、幅 8フィートである。アイヌのカツラの丸木舟を思い出した。トーテムポールは漁民系インディアンのシンボルであり、彼らは海が荒れ漁に出られないときは、木工にはげんだと言う。内陸の狩猟インディアンにはこの習慣はない。レッドシーダの蓄積はBC州全針葉樹の12%である。ヒノキ属のイエローサイプレス（ベイヒバ、アラスカシーダ）は沿岸地帯にのみ生育して、BC州針葉樹のわずか 2%しかないが、日本人には人気のある木で、日本への総輸出量の12%を占めている。バンクーバーのフレーザー河岸には多くの合板や製材工場がある。製材工場の幾つかはイエローサイプレス専門で、日本の商社が委託しているものである。24時間 3交替で操業していた。日本でベイヒ、アメリカヒノキと呼ばれるものは、ローソンサイプレス（ポートオーフォードシーダ）でアメリカのオレゴン州に生育しカナダには分布しない。

むすび

以上順不同でカナダの森林及び樹木について、とりとめもなく記してみた。はなはだ主観的なものであり、いろいろなところの植物の記述は、実際にそこに住んでみるか、または旅行しない限り、ピンとこないのが実情であろう。しかしながら、いまや日本は有数の木材輸入国であり、ただ知らないと言うだけですまされなくなって来たと思う。北海道とカナダでは、いろんなことで共通したことも多いが、違うこともまた多い。この文で少しでもカナダの樹木について認識が深められれば幸と思う。 (完)